

2010 年度ヤングサイコロジストプログラム (YPP2010)

❖ 企画趣旨

YPP は、若手研究者たちの交流を促すために開催されています。

例年通り、今回も研究発表者を募集しました。通常の研究会よりもフランクな場とし、「研究についての疑問に対して、参加者全員で考える」雰囲気になりたいと思っています。

また今回は、「論文採択虎之巻 - これから論文を書く若手会員のために - 」という企画も予定しています。論文掲載と査読の両方を経験されている話題提供者に、学会誌に論文を掲載させるために必要なスキルについてご講演いただきます。

❖ 日時/場所

2010 年 10 月 9 日 (土) 15 時 ~ 18 時

慶應義塾大学三田キャンパス・第一校舎 1 階 108 番教室

❖ 参加費

無料 (飲み物つきです。ご当地のお土産、大歓迎です!)

❖ 参加資格

日本パーソナリティ心理学会会員のうち、学部または大学院に在籍している学生、もしくは学部卒業または大学院修了 (退学含む) 5 年以内の方。

❖ 懇親会

研究会終了後、大学近くのお店を準備しています。ぜひご参加ください。

個室・海鮮 二代目 魚屋町 田町・三田本店 (<http://r.gnavi.co.jp/g431307/>)

❖ タイムスケジュール

15:00	開会、参加者自己紹介	
15:30	研究発表 1	長谷川 由加子 さん
15:55	研究発表 2	平野 真理 さん
16:20	休憩	
16:40	話題提供 1	太幡 直也 先生
17:10	話題提供 2	岡田 涼 先生
17:40	ディスカッション	
18:00	閉会	
18:30	懇親会	

Note. 自己紹介の際には、氏名・所属・研究テーマ・何か一言をお願いします。

❖ 研究発表

若手同士が集まり、普段の研究会やゼミとは違ったフランクな雰囲気の中で議論をしましょう。

長谷川 由加子 さん

相互作用としての情動の社会的共有 聞き手に対する話し手の主観的プロセスに注目して

情動の社会的共有とは、何らかの情動を経験した際にその出来事を他者に話すことである。従来の研究では情動の鎮静化などの情動制御に焦点が当てられていたが、本発表では、他者との相互作用という視点から捉え直し、話し手が持つ聞き手への欲求や聞き手から得た反応の解釈が、その後の聞き手との関係に与える影響を検討する。まだ途中経過ではあるが、ディスカッションを通して考察を深めていきたい。

平野 真理 さん

後天的に身につけられるレジリエンスとは何か

レジリエンス（精神的回復力）は、様々な要因によって導かれ、誰もが身につけられる力であると言われている。しかし全ての人が同じように身につけられるとは考えにくい。そこで発表者は、レジリエンス要因を「資質的要因」と「獲得的要因」に分けて捉える尺度を作成し、その個人差を捉える指標を得た。本発表では、その指標を用いた計量テキスト分析の結果から、後天的に身につけられるレジリエンスとは何かを検討し、今後の探求方法について議論したい。

❖ 企画 「論文採択虎之巻 - これから論文を書く若手会員のために - 」

お二人の話題提供者に、どうすれば学会誌に論文を掲載できるのか、執筆者と査読者の両方の視点からご講演いただきます。

太幡 直也 先生

研究業績 (主要な3編)

Tabata, N. (2009). Factors related to the sensitivity to unwanted transparency. *Psychological Reports*, **105**, 477-480.

太幡直也 (2009). 気づかれたくない理由が懸念的透視感を感じた際の言語的方略に与える影響 *心理学研究*, **80**, 199-206.

太幡直也 (2008). 認知的負荷が懸念的透視感によって生起する反応に与える影響 *心理学研究*, **79**, 333-341.

査読雑誌

パーソナリティ研究
社会言語科学

岡田 涼 先生

研究業績 (主要な 3 編)

Okada, R. (2010). A meta-analytic review of the relation between self-esteem level and self-esteem instability. *Personality and Individual Differences*, **48**, 243-246.

岡田 涼 (2008). 親密な友人関係の形成・維持過程の動機づけモデルの構築 教育心理学研究, **56**, 575-588.

岡田 涼・中谷素之 (2006). 動機づけスタイルが課題への興味に及ぼす影響 —自己決定理論の枠組みから 教育心理学研究, **54**, 1-11.

査読雑誌

パーソナリティ研究

+++++

YPP2010 の開催に際して、日本パーソナリティ心理学会第 19 回大会準備委員会より、多大なご支援・ご協力を賜りました。ここに深く感謝申し上げます。

+++++

❖ **主催**

日本パーソナリティ心理学会広報委員会 (担当：家島明彦・市村 (阿部) 美帆)

❖ **企画**

浅野良輔 (名古屋大学)・木戸彩恵 (京都大学)・大谷和大 (大阪大学)

❖ 付録:参加者一覧 (予約申し込み)

氏名	所属	備考
浅野 良輔	名古屋大学大学院	企画者
家島 明彦	島根大学	本学会広報委員会
市村 美帆	東洋大学	本学会広報委員会
上原 依子	大阪大学大学院	
江村 早紀	香川大学大学院	
大谷 和大	大阪大学大学院	企画者
岡田 涼	中京大学	話題提供者
岡部 大祐	青山学院大学大学院	
木戸 彩恵	京都大学大学院	企画者
後藤 綾文	名古屋大学大学院	
小橋 眞理子	立正大学大学院	
佐藤 重隆	東洋大学大学院	
澤海 崇文	東京大学大学院	
太幡 直也	常磐大学	話題提供者
中井 大介	郡山女子大学	
長谷川 由加子	上智大学大学院	研究発表者
平野 真理	東京大学大学院	研究発表者
福田 哲也	関西学院大学大学院	
森田 麻登	国際基督教大学大学院	
森本 哲介	立正大学大学院	
箕浦 有希久	関西学院大学大学院	
渡部 麻美	日本学術振興会特別研究員	

(敬称略、あいうえお順)